

「イタリアワインと友達になろう」

新シリーズ

サローネ VINO 開く

第1回「その歴史とマリアージュ」は5月24日（金）午後6時半から中央区の **La Veneziana**（ラ・ヴェネツィアーナ、札幌市中央区大通西15丁目）で開かれました。美味しくて安い **vino italiano**。もっと深く味わい、楽しく会話が弾むように、ちょっぴり学んでみようという企画。参加者は20人。定員を大きく超えたため、急遽、カウンター席を追加する盛り上がりでした。

講師のソムリエ・鈴木良さん（エノテカ&ケーシーズ札幌円山店副店長）の資料解説（写真）でイタリアを代表するVINOの産地ヴェネト州、トスカーナ州、ピエモンテ州の4種のワインをテイastingしたあと、プロセッコ・ソアヴェに合わせた魚介のオードブル、キャンテイ・クラシコに合わせたポークロースト、ネッビオーロに合わせたトマト系のパスタを味わい、会話が弾みました。



サローネ VINO は、年間数回のペースで、イタリアワインの様々な産地と種類について学びながら、ワインと料理を楽しむ予定です。

Salone d' Italia 『イタリア語で語るイタリア文化』を開催

北海道日伊協会の伊語教室講師を務めるマリアンナ・チェスパさん（北大博士課程留学中）による、Salone d' Italia「イタリア語で語るイタリア文化」が、3月24日札幌市中央区ト・オン・カフェで開かれ、出席者18名が耳を傾けました。大学卒業後、仕事が見つからず、将来への展望も無く、若者が国外へ流出している深刻なイタリアの状況。大学のシステム上の問題で、20代後半まで親の支援を受け続けざるを得ない現実。周辺国から流入する移民を取り巻く問題、国内の南北事情等、イタリアが抱える社会問題について熱く語りました。（2頁に詳報）

13年度総会と サローネ マリアンナさんの「イタリア社会を語る」

7月4日（木） 17時30分から 札幌グランドホテル 東館17階 白雲
総会に続き18時から Salone d' Italia『現代イタリア社会を語る—大学生の視点から』
と題してマリアンナ・チェスパさん（北大大学院在学中、当会伊語講師）が話します。
懇親会18時30分から 会費 6000円（サローネのみ500円） 事務局011-241-0345

3月のサローネCINEMA『ベリッシマ』(1951年制作、日本公開は81年)上映会では、みぞれの降る中、たくさんの方にお越しいただいた。ヴィスコンティ初期の名作を皆様と共に楽しめたことに深く感謝している次第である。

さて、今年もゴールデンウィークにイタリア映画祭が開催されたが、印象に残った作品をいくつかご紹介したい。

イタリア映画祭 2013

ダニエーレ・チプリ監督作『それは息子だった È stato il figlio』。パレルモに住む貧しい一家の幼い娘がマフィアの抗争に巻き込まれて命を落とす。一家が悲しみに打ちひしがれていたある日、父親は賠償金制度があることを知り申請するのだが、受け取った大金が一家の運命を変える。シチリアで起こった事件をベースにした小説の映画化。チプリ監督にとって本作が単独初監督らしいが、撮影監督として活躍してきた画作りの巧さと、悲劇にもかかわらず随所にちりばめられたコミカルな演出は、一種お伽噺のような印象さえ与え、彼の感性の鋭さを感じさせる。父親役の名優トニ・セルヴィッロの怪演は圧倒的。

フェルザン・オズペテク監督の『素晴らしい存在 Magnifica presenza』はファンタジーあふれるユニークな作品。役者を目指しながらパン屋で働く主人公が見つけた新居は古いアパートで、部屋には幽霊たちが住み着いていた。主人公は彼らを成仏させるべく奔走する。トルコ出身のオズペテク氏は(写真右)はイタリアで映画人としてのキャリアをスタートし、作品を発表している。一昨年公開の



『あしたのパスタはアルデンテ』でご存知の方も多いと思う。主演のエリオ・ジェルマーノは『我らの生活(2010年)』で数々の主演男優賞を受賞し、ノリに乗っている。端正な顔立ちだが、作品によって全く印象が変わり、見

事に役に染まるところが大きな魅力の俳優だ。

『司令官とコウノトリ Il comandante e la cicogna』は『ベニスで恋して』で知られるシルヴィオ・ソルディーニ監督作品。男手一つで難しい年頃の子供たちを育てているレオ。芸術家のディアーナは作品が売れず家賃も滞りがちで、大家のアマンツィオはそれを厳しく取り立てる。この三者が様々

な騒動をきっかけに繋がっていく様子を監督はユーモラスに描いているのだが、広場で市民の生活を見下ろすガリバルディやレオパルディ等、偉人たちの像が現状を嘆き呟くシーンを織り込んで、風刺のピリ

っときいた作品に仕上げている。実直なレオ役をヴァレリオ・マスタンドレアが、意地悪な大家を名傍役のジュゼッペ・パッティストン(写真右)が好演。



他に、ジュゼッペ・ピッチョーニ監督の『赤鉛筆、青鉛筆 Il rosso e il blu』は学校内の人間関係を通して、各々が抱える心の問題とそれを乗り越えていこうとする姿を描いた作品。人生に絶望し孤独に生きる老教師役のロベルト・ヘルリツカの演技は圧巻。『リアリティー Reality』のマッテオ・ガッローネ監督は、リアリティー番組に出演することを夢見ているうちに現実と虚構が交錯し、生活が破綻していく男の悲哀を描いた。

映画祭全体を通して、経済、家族間の問題をベースに着想された作品が多かったが、それらは現在の社会を語る上で重要なキーワードなのだろう。

(金川道子 会員。グラフィックデザイナー)

※ 7月上旬から8月上旬の間、イタリア映画『海と大陸』『ブルーノのしあわせガイド』『ある海辺の詩人』がシアターキノで上映されます。いずれも昨年の映画祭で好評だったお薦めの作品。

ミチコの映画館

着想のベースに家族と経済問題

札幌に遂にオペラ上演出来る劇場誕生！興奮しない訳がない。仮称「市民交流複合施設」として発表されている。平成12年頃に市の方からこの話しが始め、13年頃に具体的に発表された。その後18年に「創造都市さっぽろ」で宣言し、20年市民交流複合施設基本計画が策定された。

20年前になるであろうか？道で北海道立劇場を造る…やがて道に予算ないので民間と共に、ということで北海道劇場として出発する…とかなり具体化されていた設計も、最終的には流れてしまっている。あの時間はなんであったらうか。それだけに今回の劇場に対する期待感は強烈で市の方も頼もしく計画を練ってくれている。

場所 北一条西一丁目

時 平成26年着工

平成29年竣工

平成30年 オープン

次の4つの方針とそれに関わる基本機能を掲げてみます。

方針1 高水準かつ大規模な舞台芸術をはじめとする、さまざまな分野の公演が可能な場を創り出し、札幌の舞台芸術の振興、質の向上を図る。(基本機能・高機能ホール～オペラ、バレエ、ミュージカル等の舞台芸術や、

演劇、ポップス等さまざまなジャンルの公演の鑑賞の場であるとともに、舞台芸術の創造の場とする)

方針2 さまざまな札幌の文化芸術資本(ひと・もの・こと)を活かすマネジメントや、それを担う人材の育成、アーティストの活動支援、市民等への文化芸術情報の提供等を通して、札幌の文化芸術を支え、育てていく。(基本機能～アートセンター 札幌の文化芸術活動全体を支え育て、一層推進するための拠点とする)

方針3 札幌の魅力を伝える資料をはじめ、幅広い分野にわたって資料・情報を収集・提供することにより、市民は元より、後生の世代や国内外の人た

人生！音楽の旅

⑬

三部 安紀子

札幌市に「市民の劇場」

本格オペラ招聘、共同制作も可能に

ちに札幌の魅力を伝えるとともに、市民の様々な活動が豊かに広がるよう支援する。(基本機能～都心にふさわしい図書館。文化芸術や自然など、札幌の魅力を伝える情報を発信するとともに、市民の生活・仕事・活動に役立つ資料・情報を提供し、課題解決を支援する)

方針4 基本機能(高機能ホール、アートセンター、都心にふさわしい図書館)の強い相互連携と施設の効率的運用を図るとともに、施設利用者にとっての利便性、快適性とわかりやすさを確保する。(関連機能・施設全体の導入空間となる屋内広場、カフェ・レストラン、託児所等)

現在のさっぽろ芸術文化の館(旧厚生年金ホール)は老朽化が進み維持し続けるのが困難な状況な為、市民交流複合施設大ホール(仮称)を設置するとあります。観客収容数は2300席とオペラには多すぎる広さですが、いろいろのジャンルが使用する…とかでいま考慮中。施設の建物は、地下1、2階は地下通路出入り口など、1、2階はアートセンター、図書室、3階機能ホール(練習室)、4階高機能ホール(エントランス ロビー)、5階から9階



は高機能ホール(ホワイエ、客席=イメージ図=札幌市観光文化局のホームページから)

このような高機能ホールが存在することで国内外の高質なオペラ、バレエの招聘や地元団体の共同制作も可能となる。夢も遂に実現に近づき、胸がワクワクするほどで嬉しい。

(会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長)

第3回 サローネ CINEMA

音と出会う少年 『ミルコのひかり』

7月26日(金) クリスティアーノ・ボルトーネ監督 2005年制作。解説は「ミチコの映画館」の金川さん
上映 午後6時30分から見どころ解説のあと上映。終了後懇談、午後9時過ぎ閉会。

会場 みべ音楽院 札幌市中央区大通西14丁目(南向き)

懇談会費 ワイン付き 日伊協会員 500円 一般 1000円

詳しくはホームページ <http://aig-hokkaido.com> 参照。参加ご希望の方は事務局 電話 011-241-0345 へ

ランベッリ

Salone d'Italia

7月17日(水) 18時

教授の

『アメリカから見た日本とイタリアの比較』 会場未定

■ アルテピアッツァ美唄で安田侃講演会



彫刻家・安田侃さんの「トスカーナ 小さなまち 地方文化の発祥地」と題した講演会が4月13日、アルテピアッツァ美唄のアートスペースで開かれました。NPO 法人アルテピアッツァびばいの「北海道地域文化選奨」と「第3回地域再生大賞優秀賞」受賞を記念したもので、北海道日伊協会の後援。

安田さんは、地域が一つ一つ文化的な価値を作り上げていくことの大切さを語りました。

懇親会では NPO アルテの手打ちそばと餅つきのもてなし。石炭ストーブと安田侃さんを囲んで話が弾みました。(写真は残った会員が安田さんを囲んで)

会員から

◇ NATSUKIさん SAPPORO CITY JAZZ 出演

「ナツキ&ブライトサッポロゴスペルクワイア」が8月25日(日)札幌芸術の森野外ステージで開かれる『ノースジャムセッション グリーンステージ』に渡辺貞夫らとともに登場します。椅子指定席 6000円、芝生自由席 4500円(前売り)。詳しくは www.sapporocityjazz.jp で。

◇ 延与幸恵ソプラノリサイタル Vol.2

8月30日、札幌コンサートホール KITARA 小ホール
ピアノ赤松林太郎

19時開演

料金 3000円(全席自由)

曲目 ロッシーニ「歌劇

『セビリヤの理髪師』

より『今の歌声は』、

ドニゼッティ「歌劇

『ランメルモールのル

チア』より『あなたは

沈黙に閉ざされ』他

Kitara チケットセンター

電話 011-520-1234



編集後記

春以降、公式ホームページのスタート、サローネ CINEMA からサローネ VINO へと楽しんでいるうちに、新会員の姿が目立ち、これまで新たに10人の加入がありました。会員が増えれば、それだけの人生と知恵が集まるわけで、懇親の会話も弾んでいます。ますますサローネが待ち遠しくなりました▼元副会長の北原敦北大名誉教授(イタリア史)が札幌に避暑にやってくる機会にぜひとお願いし、サローネの開催(8月10日土曜日、事務局・伊語教室で)が決まりました。タイトルは「イタリア映画の今と昔」。終了後、懇親会を予定。ご期待ください(彦)